

令和5年度  
〔令和4年度事業対象〕

教育に関する事務の点検・評価報告書





## はじめに

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」第26条第1項の規定に基づき、毎年、教育委員会の取組について点検・評価を行い、その結果を公表することで、効果的な教育行政の推進に役立てるとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として作成するものです。

令和5年度は、9月に「第2次鹿沼市教育ビジョン」に掲げた諸事業について、学識経験者等3名による評価委員会を開催し、点検・評価を行いました。

評価委員会からのご意見やご提言等を踏まえ、より良い鹿沼市の教育の実現に向けて、昨年度からスタートしました「第2次鹿沼市教育ビジョン」に位置付けた各種施策及び掲載事業等の着実な推進に取り組んでまいります。

令和5年12月

鹿沼市教育委員会

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条（一部省略）

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目 次

I	教育委員会活動	1
II	点検・評価	3
III	評価結果	
	講評	4
	評価一覧	5
	基本目標1「未来を拓く学校教育の推進」	6
	基本目標2「次代につなぐ教育環境の充実」	20
	基本目標3「地域とともに高める学びと協働活動」	30
	基本目標4「スポーツでつくる健康都市の推進」	50
IV	資 料	
	鹿沼市教育委員会評価委員会設置要綱	55

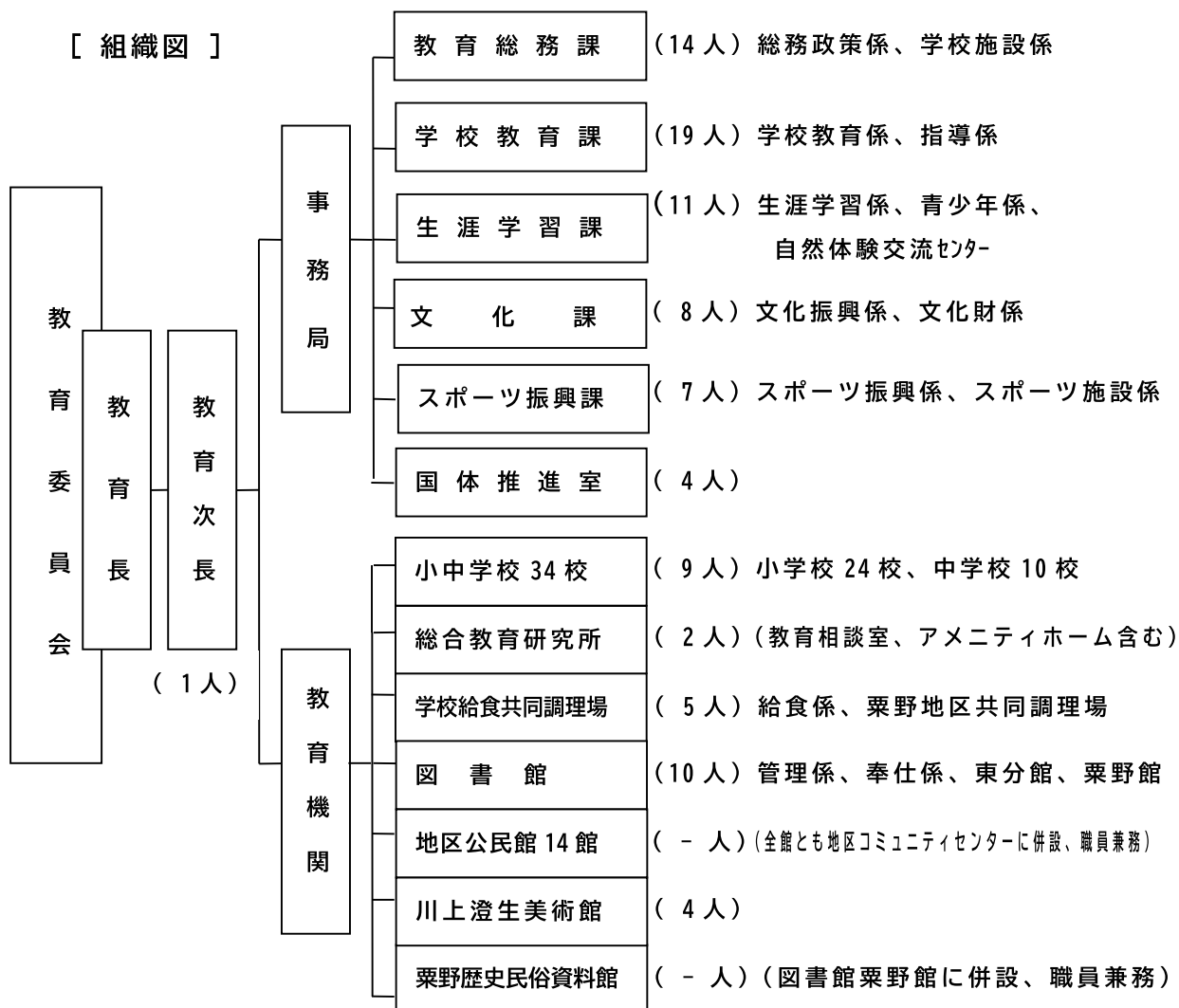
# I 教育委員会活動

## 1 教育委員会の所在地

所在地	電話番号	庁舎
(〒 322-8601) 鹿沼市今宮町1688番地1	(TEL) 0289-63-2234 (FAX) 0289-63-2118	市民情報センター4階

## 2 組織体制 (R5.3.31現在)

[ 組織図 ]



※ (94人) … (正規の職員数)

事務職員	70人	技術職員	4人	技能労務職員	15人	
再任用職員	5人	会計年度任用職員	166人	その他の職員	7人	
					合計	267人

### 3 教育委員（R5.3.31現在）

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	中 村 仁	
教育長職務代理人	倉 松 俊 弘	
委 員	平 野 美 恵	
委 員	宮 田 里 枝	
委 員	伊 矢 野 洋 一	

### 4 「第2次鹿沼市教育ビジョン」の教育目標

#### 鹿沼市教育目標

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間性豊かで、思いやりのある市民を育む</li> <li>2 教養を高め、多様な価値観を認め合う市民を育む</li> <li>3 郷土を知り、豊かな郷土づくりに励む市民を育む</li> <li>4 人間を尊び、平和な社会を築く市民を育む</li> <li>5 自然を愛し、環境を守る市民を育む</li> </ol> |
|--|

### 5 活動状況

#### (1) 委員会の開催

##### ア 会議

定例会・臨時会の別	開催回数	付議事件等の件数	
		議 案	報 告
定 例 会	11回	53件	24件
臨時会（持ち回り）	3回	4件	0件

##### イ 意見交換会

教育委員の資質向上と教育委員会の活性化を図ることを目的に、委員会の会議終了後、近年の教育を取り巻く諸問題等に係る各委員からの事前質問をテーマとした意見交換会を計8回開催した。

なお、意見交換会で取上げたテーマは、11件となっている。

#### (例) 1月の意見交換会での事前質問

- 1 鹿沼市の不登校児童生徒の状況について
- 2 あだ名について

(2) 研修会等

研 修 会 等	期 日	場 所
第1回鹿沼市・日光市 教育委員会連合会総会	令和4年5月18日	鹿沼市
第1回栃木縣市町村 教育委員会連合会総会	令和4年5月23日	宇都宮市
関東甲信越静市町村教育委員 会連合会総会	令和4年5月27日	書面表決
第2回鹿沼市・日光市 教育委員会連合会総会	令和4年10月5日	日光市
第2回栃木縣市町村教育 委員会連合会総会・研修会	令和4年11月7日	宇都宮市

(3) その他

学校訪問や教育委員会関係各種行事への出席

## II 点検・評価

### 1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「第2次鹿沼市教育ビジョン」に基づき実施した事務事業とし、基本施策ごとに点検・評価を行うこととした。

なお、今回の対象である令和4年度は、「第2次鹿沼市教育ビジョン」の初年度にあたる年度である。

### 2 点検・評価の方法

学識経験者等の知見の活用を図り、併せて評価の客観性を確保するため、鹿沼市教育委員会評価委員会を設置し、点検評価シート、参考資料、担当課ヒアリング等により評価委員からご意見をいただいた。

### 3 評価委員

本市教育委員会が委嘱した委員は、次のとおり。

氏 名（敬称略）	経 歴 等
瓦 井 千 尋	元 宇都宮大学 教授
山 本 和 子	鹿沼市社会教育委員長
石 川 広 己	上都賀地区退職校長会理事

### Ⅲ 評価結果

#### 「講 評」

##### 〔はじめに〕

令和5年9月15日、22日、29日の3日間にわたり、「鹿沼市教育委員会評価委員会」を開催しました。今回の点検・評価は、昨年3月に策定された「第2次鹿沼市教育ビジョン」（以下、「本ビジョン」とする。）の初年度に当たる令和4年度分の15の基本施策を構成する52全ての主要施策を対象としました。

点検・評価に当たっては、「本ビジョン」の基本理念である『学びから 未来を拓く ひとづくり』の趣旨を踏まえ、担当部署が事前に行った自己評価と当日のヒアリングをもとに、3つの観点（①実行性＝計画通りに効率よく実施できたか、②妥当性・必要性＝なぜ、何のために行ったのか、③達成度＝目標に対する達成度はどうか）から実施しました。

##### 〔総 評〕 — 紙幅の都合で、四領域の達成状況が良好であった施策等を中心に —

「基本目標1 未来を拓く学校教育の推進」の領域では、道徳教育や人権教育において授業公開や研修会を積極的に開催するとともに、インクルーシブ教育や教育相談の充実を図り、児童生徒一人一人を大切にしたい豊かな心を育む教育の充実に努めてきました。

「基本目標2 次代につなぐ教育環境の充実」の領域では、厳しい財政状況の中にあっても、計画的な学校の施設・設備の改修や修繕、ICT機器活用に向けた整備や児童生徒への就学支援に努めてきました。

「基本目標3 地域とともに高める学びと協働活動」の領域では、多くの施策が、多様で活気あふれる地域づくりを見据え、市民が地域に誇りと愛着を持って生活ができるよう、様々な学びを促す取組を展開してきました。

「基本目標4 スポーツでつくる健康都市の推進」の領域では、国体・障がい者スポーツ大会を成功裏に導きました。各種の運動教室やスポーツイベント・大会を積極的に企画し、参加体験の機会を設けるなど、市民のスポーツ参画の拡大に努めてきました。

##### 〔今後に向けて〕

時期的に見ると、今回の点検・評価の結果が令和6年度の各施策にどのように反映されるのかが懸念されるところではあります。とは言え、令和6年度は、「本ビジョン」の計画期間（令和4年度～8年度）の中間年に当たり、各施策のこれからの方向性を決定づけるといっても過言ではない、極めて重要な一年になります。

そこで、これまでの取組を振り返って、「期待した成果が得られた」という施策については、順調に進んでいる要因をしっかりと見極めたうえで、引き続き御盡力をいただきたい。一方で、「概ね期待した成果に近い」、あるいは、「期待した成果はあまり得られていない」という施策については、計画した段階と現在とを比べ、社会変化や市民のニーズに対応できていたか、取組方法にマンネリ化はなかったか、といった観点から見直し改善を図りつつ、粘り強く前向きに取り組んでいただくことを期待しています。

結びに、「本ビジョン」の基本理念である『学びから 未来を拓く ひとづくり』の実現に向け、鹿沼市民の皆様の深い御理解と御協力の下、鹿沼市教育委員会の実効性ある各種の施策が今後とも効果的に推進されることを大いに期待しております。

令和5年10月  
鹿沼市教育委員会評価委員会  
委員長 瓦井千尋



## 令和5年度 評価委員会による評価結果一覧

基本目標	基本施策	主要施策	重点	掲載ページ	最終評価		
①「未来を拓く学校教育の推進」 (学校教育)	1 確かな学びを育む教育の充実	① 教員の指導力向上	○	7	B	B	
		② 英語教育の拡充・強化	○	8	B		
		③ 学習意欲向上への取組	○	8	B		
		④ ICTを活用した学びの推進		9	B		
		⑤ 幼小連携の推進		9	B		
	2 豊かな心を育む教育の充実	① 道徳教育の充実	○	10	A	A	
		② 自己指導能力を育む児童・生徒指導の充実		10	A		
		③ 人権教育の推進		11	A		
		④ 学校図書館の利用促進		11	B		
	3 健やかな体を育む教育の充実	① 児童生徒の体力向上の推進	○	13	B	A	
		② 学校保健・安全教育の充実		14	A		
		③ 学校における食育の推進		14	A		
	4 時代に即した教育課題への対応	① 教育研究事業の推進		16	B	B	
		② 多文化共生に向けた教育の推進		16	B		
	5 一人一人を大切にし、可能性を伸ばす教育の充実	① 特別支援教育の充実		18	A	A	
		② 教育相談の充実	○	18	A		
		③ キャリア教育の充実		19	A		
	②「次代につなぐ教育環境の充実」 (教育環境)	6 教育施設の充実	① 小中学校の整備		21	A	A
			② 小中学校の長寿命化整備	○	22	A	
③ 学校防犯設備等の整備				22	A		
④ 小中学校の適正配置			○	23	B		
⑤ スクールバスの運行				24	A		
7 学力向上を支える就学環境の充実		① 小中学校児童生徒への就学支援		25	A	A	
		② より良い教育環境の整備		26	A		
		③ 教育のICT環境整備	○	27	A		
		④ 市奨学生の支援		28	A		
		⑤ 安全安心な学校給食の提供	○	29	A		
③「地域とともに高める学びと協働活動」 (生涯学習・青少年育成・文化振興)	8 地域ぐるみで学び育ち合う体制の構築	① コミュニティ・スクールの導入推進	○	31	A	A	
		② 地域学校協働活動の推進	○	32	A		
		③ 家庭教育の支援		32	B		
	9 主体的に学べる生涯学習環境の推進	① 多種多様な学習機会の提供		34	B	A	
		② 青少年健全育成活動の推進	○	35	B		
		③ 自然生活体験学習の提供		35	A		
		④ 生涯学習施設の整備と長寿命化		36	A		
	10 学びを活かす社会参画の推進	① 青少年の主体的な社会参画の促進		37	A	A	
		② 地域人材ネットワークの活用促進		38	B		
	11 主体的な文化活動と特色ある文化の形成	① 文化芸術活動の次世代への継承		39	B	B	
		② 文化の杜(市民文化センター)の活用推進		39	B		
	12 地域資源の継承と郷土学習の推進	① 文化財指定の推進と保護		41	A	A	
		② 地域資源の調査と保存		42	A		
		③ 郷土愛を育む学習の推進		42	A		
④ 伝統行事の継承		○	42	B			
13 博物館等活動の推進	① まるごと博物館事業の推進		44	A	A		
	② 魅力ある川上澄生美術館の運営		44	B			
14 市民の読書環境の充実	① 子どもの読書活動の充実	○	46	A	A		
	② 読書普及事業の推進		47	A			
	③ 図書館資料と業務システムの充実		48	B			
	④ 快適で親しまれる図書館の整備・充実		48	A			
④「スポーツでつくる健康都市の推進」 (スポーツ)	15 スポーツ参画人口の拡大と施設の総合管理	① 市民のスポーツ参画人口の拡大	○	51	A	A	
② いちご一会とちぎ国体、いちご一会とちぎ大会の開催			51	A			
③ スポーツ交流の促進			52	A			
④ スポーツ環境の整備と利活用の促進			53	A			

A : 施策展開により多大な成果があった。 B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。 D : 施策展開を行わなかった。

# 点検評価シート

基本目標 1 未来を拓く学校教育の推進

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>1. 確かな学びを育む教育の充実</b>	最終評価	B
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 モデル校の指定は、各学校において良い授業改善になっていると思うが、一方でモデル校のみの成果にならないよう水平展開をどう行うかは課題として残る。また、教職員の異動の際においても、次の学校でその成果を繋げていただきたい。</p> <p>No.2 単なる英語学習だけではなく、ALTとの学びの中でその文化に触れられるのは重要だと思う。また、定期的にALTの配置を変えることは、学校間格差の是正やALTの質の向上に繋がる取り組みとして評価できる。</p> <p>No.3 学ぶ意欲とは何かを考え、学習習慣の定着を目指していただきたい。また、非常勤職員の配置を手段のひとつとしているが、多人数学級や複式学級などへの適正な配置を行っていただきたい。</p> <p>No.4 通信環境が整っていない家庭では端末を持ち帰っても本来の活用ができない。市として積極的な支援をしなければ解決しないと思う。他市ではすでに支援をしているところもあるため、参考としていただきたい。</p> <p>No.5 子どもたちが小さなうちから学校訪問など学校と交流の機会が多くあると良い。また、私立幼稚園などの場合、研修などへの参加は難しいのが現状と思われる。ICTを活用した新たな研修機会の提供を検討しても良いのではないか。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
<b>1 教員の指導力向上</b>	<b>【重点取組】</b>	B	B
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の新しい時代に必要とされる資質・能力の育成を目指し、教員の専門性の向上と指導力の向上を図る。</li> <li>・授業改善を視点とした研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。</li> <li>・教職3年目以内の教員の研修の充実を図り、若手教員の育成に努める。</li> </ul> <p>【予算額】教育研究所事業費(講師謝礼) 437千円</p>		
〔目標〕	<p>授業改善に関する取組状況の事項における児童生徒の肯定的回答の割合</p> <p>令和3年度 74.1% (小学校) → 令和8年度 80.0% (小学校)</p> <p style="padding-left: 100px;">76.0% (中学校) → 80.0% (中学校)</p>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校を設け、児童生徒に新しい時代に必要とされる資質・能力を育成できるよう、授業改善に取り組んだ。</li> <li>・授業力向上事業研修会(かぬま教育研究の日)を実施し、モデル校の取組の水平展開を図った。</li> <li>・教職2、3年目の教員を対象に個々の教員の実態に即した研修(1人に対して年2回)を行った。</li> <li>・令和4年度の目標の指標とする項目における児童生徒の肯定的回答の割合 小学校74.8% 中学校77.7%</li> </ul> <p>【決算額】教育研究所事業費(講師謝礼) 437千円</p>		

〔 課題及び  
今後の進め方 〕

授業改善を、モデル校で主導的に進めながら全校へ水平展開を行ってきており、学校訪問等からも授業が教師主導から児童生徒主体の授業へと変わってきている様子がうかがえる。  
その取組が、教科調査の結果にもつながるよう、児童生徒の資質・能力を育成するための指導力の向上に向けて、行政主導ではなく、学校や教員自身が主体的に評価、改善しながら授業づくりをしていけるような取組を推進していく必要がある。

施策評価		自己評価	委員会評価
2 英語教育の拡充・強化	【重点取組】	B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校教員への英語教育研修の実施など、指導力向上に取り組む。</li> <li>・コミュニケーション能力の向上を目指し、英語教育を強化していくために、小中学校教員と外国語指導助手(ALT・JTE)が協力して、より効果的な授業を行う。</li> <li>・各中学校との連携により、中学生の英検受験の環境整備を進める。</li> </ul> <p>【予算】外国語指導助手報酬 5,040千円 外国語教育推進事業費 5,915千円</p>		
〔 目標 〕	英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合 令和3年度(39.8%) → 令和8年度(70%)		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15名の外国語指導助手(ALT・JTE)を配置し、小中学校の外国語教育の充実を図った。</li> <li>・モデル校を設け、教員研修会を実施することで、授業力向上に取り組んだ。</li> <li>・英検受験料の補助制度(要保護・準要保護家庭)</li> </ul> <p>【決算】外国語指導助手報酬 49,819,661円 外国語教育推進事業費 3,950,801円</p>		
〔 課題及び 今後の進め方 〕	英語でのコミュニケーションを図る資質・能力の育成のため、外国人指導助手(ALT・JTE)の活用の幅を広げる。		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 学習意欲向上への取組	【重点取組】	B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学ぶ意欲を高め学習習慣の定着を目指す。</li> <li>・その手立ての一つとして、小中学校における多人数学級や複式学級、支援を要する学級などに非常勤講師を配置し、児童生徒へのきめ細やかな支援を行うことで、学習意欲の向上を図る。</li> </ul> <p>【予算額】公立学校非常勤講師報酬 153,189千円</p>		
〔 目標 〕	自分で計画を立てて学習をしている児童・生徒の割合 69.0%(令和3年度) → 74.0%(令和8年度)		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は66名の非常勤講師を配置し、支援の充実を図った。</li> <li>・非常勤講師の研修の機会を設け、指導力の向上を図った。</li> <li>・令和4年度の割合 67%</li> </ul> <p>【決算額】公立学校非常勤講師報酬 148,728千円</p>		

〔 課題及び  
今後の進め方 〕

学習意欲向上への取組は、教員の指導力や児童生徒が安心して学べる環境など様々な要因が複雑に関係している。  
非常勤講師の配置は、それらを支える手立ての一つであり、学校のニーズにできる限り対応できるよう、引き続き非常勤講師を配置し、きめ細やかな支援を行うことで、児童生徒の意欲の向上を図る。

施策評価		自己評価	委員会評価
4 ICTを活用した学びの推進		B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT環境を最大限活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなぐ。</li> <li>・教員のICT活用に関する研修機会を適切に確保し、教員の指導力向上を図る。</li> <li>・学校・家庭・地域及び関連機関と連携しながら、児童生徒が自律的に情報機器を適切に利用できるよう情報モラル教育を推進する。</li> </ul>		
〔 目標 〕	本市主催の「情報教育研修会」への市内小中学校の全校参加		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家によるICT活用研修会を4回実施し、計77名の教員が参加した。</li> <li>・夏季休業中の要請訪問により、ICT活用に関する個別の研修会を実施した。</li> <li>・教員同士によるICT活用の事例共有や疑問解決のためのTeamsを作成し、現在144名の先生方が参加している。</li> <li>・情報モラルについては上都賀教育事務所を通じて講師を派遣する事業の活用により、各校で保護者や児童生徒対象の研修会を行った。</li> </ul>		
〔 課題及び 今後の進め方 〕	<p>児童生徒の端末の持ち帰りが進んでいない。 経済的理由でwifi環境が整っていない家庭への支援の在り方や、端末破損等の対応についての対応指針を整理したうえで、全小中学校で日常的な端末の持ち帰りを促していく。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
5 幼小連携の推進		B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校が連携をし、円滑な幼小連携を推進していく。</li> <li>・小学校入学時における、幼児期の学びから小学校教育への円滑な接続を目的としたスタートカリキュラムの作成を実施する。</li> </ul>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な幼小連携を推進していくため、幼小合同の研修会を実施する。</li> <li>・研修会を通して、よりよいスタートカリキュラムへと反映できるようにする。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小連携のための研修会を年2回(5月、2月)実施した。</li> <li>・研修会の中で、演習を通しながらスタートカリキュラムの見直しを行った。</li> <li>・新入生入学式前にホームページ掲載を実施した。</li> </ul>		
〔 課題及び 今後の進め方 〕	幼小連携への理解を深めるため、研修会参加者の枠を拡充していく。		

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>2. 豊かな心を育む教育の充実</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 新学習指導要領では”考え、議論する道徳”の実践が求められており、取組としての実績は評価できると思う。</p> <p>No.2 学級経営の充実への取組は大変評価できるため今後も徹底を図っていただきたい。また、学校が認知した”いじめの解消率”の95%は高い解消率と思う。簡単ではないと思うが残りの5%の解消に努めていただきたい。</p> <p>No.3 着実な取組をしており、体感として人権教育が良く成されていると感じる。</p> <p>No.4 学校図書館の利用促進を目的とするならば、読書の推進だけを目標にして良いのか疑問である。市立図書館のように音楽CDを置くなど発想の転換が必要ではないか。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 道徳教育の充実	<b>【重点取組】</b>	B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校における児童生徒の実態のもと、全教育活動における道徳教育を推進するとともに、道徳教育推進体制の充実を図る。</li> <li>・道徳教育推進教師等を対象とした研修会の開催などを進め、授業の質の向上と改善を図る。</li> <li>・道徳科における指導と評価の改善・向上のため、授業を積極的に公開する。</li> </ul>		
〔目標〕	全国学力・学習状況調査質問紙調査の道徳性に関する質問紙の肯定的な回答の割合 95%（令和3年度）→ 97%（令和8年度）		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぬま教育研究の日にて4授業を公開し、計76名の先生が参加した。</li> <li>・道徳科の研究授業が年間50以上公開され、指導主事が改善のための指導助言を行った。</li> </ul>		
〔課題及び今後の進め方〕	現行事業の継続と、講師派遣機会のより一層の確保が求められる。		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 自己指導能力を育む児童・生徒指導の充実		B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動における児童生徒の自発的・自治的な活動等を通して、児童生徒の自己指導能力や自己有用感の育成を図る。</li> <li>・いじめをはじめとする問題行動等に対して、学校・地域・関係機関等との連携を図り、早期発見・早期対応に努める。</li> </ul>		
〔目標〕	小中学校における全ての教育活動を通して、児童生徒一人一人の自己指導能力を育成を図る。		

〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上事業において、特別活動のモデル校を指定。モデル校の取組を、11月かめま教育研究の日等において市内全小中学校に共有を図った。</li> <li>・学級活動を中心に、児童生徒がよりよい学校生活をめざすために合意形成を図ったり、協働的に実践したりすると共に、互いの関わりを通して、一人一人の存在感や自己実現の喜びを味わえるような学級経営の充実を図った。</li> <li>・大きな問題行動等の発生は報告されておらず、学校が認知したいじめの解消率は95.0%であった。</li> </ul>
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>今後も、児童生徒の自己指導能力の育成および伸長を目指し、児童生徒の自治的・自発的な活動機会を意図的に設定しながら、継続して組織的・計画的な支援を行っていく。</p>

施策評価		自己評価	委員会評価
3 人権教育の推進		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の児童生徒の実態に応じながら、人権教育の推進を、学校教育活動全体を通して実施していく。</li> <li>・児童生徒対象の人権教育講演会を実施する。</li> <li>・副読本や啓発資料を作成・活用し、人権教育の充実と啓発に努める。</li> <li>・教職員対象の研修を開催する。</li> </ul> <p>【予算額】学校人権教育推進費 1,555千円</p>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒対象の人権教育講演会を実施する。(6～8割)</li> <li>・人権教育推進委員会を設定し、人権教育の充実と啓発に努める。(6回)</li> <li>・教職員対象の研修を開催する。</li> <li>・人権教育に関する資料(「なかま」)の活用を推進する。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育講演会は、小学校19校、中学校8校から希望があり実施できた。小学校は部落解放同盟より、中学校はS-PEC、国際交流協会より講師を招いた。</li> <li>・人権推進委員会では、現場の教師6名で、合計6回行い、学校での人権教育の取組の参考資料を作成した。</li> <li>・人権教育主任や新規採用教職員を対象とした研修を実施した。</li> </ul> <p>【決算額】学校人権教育推進費 1,433千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>人権教育の推進のため、講演会や研修会等、計画的に実施していく。講演会の講師において、中学校では、発達段階に応じて講話内容を選択できるようにする。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
4 学校図書館の利用促進		B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の読書活動を促進させるとともに、授業における図書の利用を積極的に行えるよう、学校図書館支援員を配置し支援ができるようにする。</li> <li>・市立図書館と連携しながら、家読の推進や不読率(1か月に読書の冊数が0冊と回答した率)の改善に努める。</li> </ul>		

〔 目 標 〕	学校図書館支援員を各学校に配置し、学校図書館の利用促進を図るとともに読書活動の推進に努める。
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援員10名を配置した。</li> <li>・学校図書館支援員と学校の連携の下、読書推進に努める活動に取り組んだり、学校のニーズに合わせて、市立図書館の本を学校へ貸借したりする。</li> </ul>
〔 課題及び今後の進め方 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、かなりの利用制限があったため、状況を確認しながら利活用を復活、推進していく。</li> <li>・学校図書館支援員と学校の連携の充実を図れるようにする。</li> </ul>

- A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。



## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>3. 健やかな体を育む教育の充実</b>	最終評価	A
<p>＜点検・評価＞ 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 運動が苦手と感じている児童生徒がいる中で”体を動かすことが楽しい”と思えるような取組は大変だと思うが、今後も各学校の組織的取組の推進に期待する。</p> <p>No.2 コロナ禍においても大きな事故がなかったのは日々の感染症対策や安全対策の徹底がなされているからと思う。食物アレルギーへの対応についても各学校や調理場における理解や指導が図られていると感じる。</p> <p>No.3 栄養教諭などの活躍により学校給食に工夫がみられる。地産地消や郷土料理の提供など今後も充実を図っていただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 児童生徒の体力向上の推進	<b>【重点取組】</b>	B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が自ら進んで運動に親しむ態度の育成を目指し、各学校の実態に即した組織的・計画的な取組を推進する。</li> <li>・児童生徒が身体を動かすことを好きになるような指導および支援ができるよう、教員の資質向上を図る。</li> </ul>		
〔 目 標 〕	<p>「運動やスポーツをすることが好き」と回答する児童生徒の割合</p> <p>87.1%（令和3年度）→ 90.0%（令和8年度）</p>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上事業において、体育のモデル校を指定。モデル校においては、体育の授業改善を中心に、「運動が好き」、「体を動かすことが楽しい」と感じる児童の育成を目指し、自ら運動に関わる児童の態度の伸長に努めた。</li> <li>・上記モデル校の取組を、11月かぬま教育研究の日等において市内全小中学校へ周知した。</li> <li>・12月に外部講師を招聘し、体育に関わる教員を対象とした体力向上指導者研修会を開催した。</li> </ul>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>今後も本市の児童生徒の体力課題改善に向けた教員の指導力の向上、学校全体における体力向上を目指した組織的取組の推進を図っていく。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 学校保健・安全教育の充実		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における感染症対策の徹底を図り、児童生徒が安心して学校生活を送れるような環境づくりを行う。</li> <li>・児童生徒の健康課題に対し、健康の保持増進を図るための着実かつ計画的な取組を推進する。</li> <li>・食物アレルギーについて、教職員が正しい理解と対応が図れるよう、関係機関との連携強化や研修会の開催などの事故防止に向けた取組を支援する。</li> <li>・教育活動全体を通じた安全教育の充実を図り、児童生徒が自ら自分の身を守る「自助力」の育成・向上に努める。</li> </ul> <p>【予算額】学校保健衛生費(小学校) 17,215千円 学校保健衛生費(中学校) 9,059千円</p>		
〔 目標 〕	各学校が学校保健および学校安全の充実に努め、本市の児童生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう支援する。		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスやインフルエンザについて、常時専門機関等と連携を図りながら、学校に対し適宜情報提供を行うことができた。</li> <li>・食物アレルギーや生活習慣病等について、各学校が適切な対応が図れるよう、研修会において理解啓発を推進した。</li> <li>・生活安全、交通安全、災害安全について、各学校が実態に即した適切な指導を行うことできるよう、学校訪問等において指導助言を行った。</li> </ul> <p>【決算額】学校保健衛生費(小学校) 16,264千円 学校保健衛生費(中学校) 8,264千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	今後も、学校保健および学校安全の充実に向け、教員の理解啓発を推進していくとともに、学校、関係機関等との連携強化を図っていく。		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 学校における食育の推進		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を生きた教材とするため、さらなる献立の充実や地産地消給食「さつきランチ」など行事食を実施する。</li> <li>・食の楽しさ・大切さを理解し心身ともに健康な生活を送るため、栄養教諭等による食に関する指導を実施する。</li> </ul>		
〔 目標 〕	<p>学校給食における「さつきランチ」などの生きた教材となる行事食の提供回数の維持</p> <p>37回（令和3年度）→ 37回（令和8年度）</p>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さつきランチ」などの生きた教材となる行事食の提供を計画に基づき38回実施した。</li> <li>・栄養教職員研修会を計画的に開催し、食に関する全体計画について、拾い出した各教科の単元から料理や食材に落とし、教科と連携した給食の提供に向けての体制を作った。</li> <li>・栄養教諭等による食に関する指導を34校全てで行った。（322時間）</li> </ul>		

[ 課題及び今後の進め方 ]

- ・各教科と連携した学校給食の提供を計画的に行い、児童生徒が学びを深める手段の一つとなるよう、充実を図る。
- ・学校、家庭、地域が連携した食育推進を図る。
- ・教科と連携した給食の提供についても計画的に実施できるよう、献立計画を見直す。

- A : 施策展開により多大な成果があった。    B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。    D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>4. 時代に即した教育課題への対応</b>	最終評価	B
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見                  No.1 目標に対する実施状況は良いが、教職員が取り組んでいる「調査・研究」や「研修」の成果の水平展開をどう行うかは課題として残る。                  No.2 グランドフォークス市との交流事業に参加したあとの展開が重要であるが、多文化共生はグランドフォークス市との交流だけではない。</p>			

施策評価	自己評価	委員会評価
<b>1 教育研究事業の推進</b>	B	B
<p>〔事業概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における教育課題のほか、時代の要請に応じた様々な教育課題についての調査・研究等を推進し、課題解決に向けた教育施策を推進する。</li> <li>・学校教育の推進に向けた教職員対象の研修会を実施する。</li> <li>・教育に関する資料等を収集・作成し、情報を提供する。</li> </ul> <p>【予算額】教育研究所事業費 4,891千円</p>		
<p>〔目標〕</p> <p>教職員研修における参加者満足度の肯定的回答の割合                  96.3%（令和3年度）→ 97.0%（令和8年度）</p>		
<p>〔実施状況〕</p> <p>教員が新しい時代に必要とされる資質・能力を理解し、それを育成するための指導法について改善していくなどの「調査・研究」及び「研修」に取り組んだ。</p> <p>【決算額】教育研究所事業費 4,636千円</p>		
<p>〔課題及び今後の進め方〕</p> <p>「調査・研究」の成果についての水平展開を図る。</p>		

施策評価	自己評価	委員会評価
<b>2 多文化共生に向けた教育の推進</b>	B	B
<p>〔事業概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化に対応した人材育成の一環として、児童生徒に異文化理解や多文化共生の考えが根付くよう、互いを尊重しながら学び合えるような環境づくり、教育の充実を図る。</li> </ul>		
<p>〔目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外友好都市ノースダコタ州グランドフォークス市との交流事業参加者満足度80%以上</li> <li>・イングリッシュキャンプ参加者アンケート満足度80%以上</li> <li>・日本語指導要請に対する対応率90%以上</li> </ul>		

〔 実施状況 〕

- ・令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アメリカ合衆国グランドフォークス市からの派遣交流を中止し、代替事業を実施した。
- ・市内小中学生が参加し、ALTとの活動を通して、各国の文化に触れた。
- ・外国人児童生徒等日本語指導対応の拠点校を2校配置し、習得が不十分と思われる児童生徒に対して日本語指導を行った。

- 〔 課題及び  
今後の進め方 〕
- ・海外友好都市との交流方法の検討。
  - ・外国人児童生徒支援体制の構築。

- A : 施策展開により多大な成果があった。    B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。    D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	5. 一人一人を大切にし、可能性を伸ばす教育の充実	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 事業の実施状況をみても障がい者への理解や教職員の特別支援教育に対する理解が高まっていると感じる。</p> <p>No.2 施策としてとても重要であり、重い課題に対して良く対応していると感じる。</p> <p>No.3 マイチャレンジ事業は生徒が社会と関わりを持ち、良い経験が出来る素晴らしい事業である。今後は、鹿沼市独自のキャリア教育プランの下、本事業を中核事業として位置付け、引き続き支援をしていただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 特別支援教育の充実		B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システムの構築ができるよう、研修会などを通して教師の専門性を高める。</li> <li>・障がいのある子供が十分に教育を受けられるように合理的配慮(社会の中にあるバリアを除去するために行う必要な対応)及び環境整備に努める。</li> <li>・関係機関と連携し、切れ目のないサポート体制の充実を図ることができるように就学を支援する。</li> </ul> <p>【予算額】心の教育推進事業費 6,105千円                      特別支援教育費(小学校) 1,144千円                      特別支援教育費(中学校) 405千円</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システム推進事業研修会における参加者アンケートの結果「満足・やや満足」の数値が90%以上</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校である南摩小においてインクルーシブ教育システム推進事業研修会を実施。参加者29名中「満足・やや満足」は100%</li> <li>・関係機関と情報共有などをし、適切な学びの場を検討する教育支援委員会において、204名の児童生徒の審議を行った。</li> </ul> <p>【予算額】心の教育推進事業費 5,689千円                      特別支援教育費(小学校) 1,140千円                      特別支援教育費(中学校) 402千円</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システム推進事業のモデル校である南摩小での取り組みを、他校でも取り入れ実践できるようにICTを活用する。</li> <li>・教育支援委員会へ審議依頼する前に、校内において、本人および保護者との合意形成が図れるように、より具体的に就学支援について説明する。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 教育相談の充実	【重点取組】	B	A

〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来室による相談を基本に、電話相談、意思を招いての医療相談等を行う。</li> <li>・小中学校での不適応について、児童生徒・保護者等のニーズに沿った相談を行う。</li> <li>・不登校(傾向)児童生徒について、小中学校と情報を共有し、相談や家庭訪問を通して、不登校(傾向)児童生徒の支援を行う。</li> <li>・適応指導教室『アメニティホーム』で不登校(傾向)児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。</li> </ul> <p>【予算額】教育相談専門員報酬 35,193千円</p>
〔目標〕	<p>相談者のニーズに沿った相談を展開した割合 95.0% (令和3年度) → 98.0% (令和8年度)</p>
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に関する相談や不登校・行き渋りに関する相談を主に223件の相談を行った。年間対応ケース数1672件。</li> <li>・医療相談では市内の医師を招き、5回実施し7名の相談を行った。</li> <li>・相談者アンケートの結果肯定的な割合は90%で、10%無回答であった。</li> <li>・小中学校や関係機関との情報を共有し支援を行った。</li> <li>・適応指導教室『アメニティホーム』では11名の通室生と7名の個別対応を行い、社会的自立にむけ支援し、全員が様々な形で学校復帰を果たした。</li> </ul> <p>【予算額】教育相談専門員報酬 34,607千円</p>
〔課題及び今後の進め方〕	<p>多岐に渡る相談主訴や長期にわたる相談ケースへの対応が課題であり、関係機関と連携しながら工夫して対応していく。</p>

施策評価		自己評価	委員会評価
3 キャリア教育の充実		B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が学習を人生や社会と関連付けていけるよう、体験活動を支援する。</li> <li>・地域の人々との関わりを主とした職場体験学習(マイチャレンジ事業)を推進させる。</li> <li>・学びを記録し振り返ることができる教材(鹿沼市版キャリアパスポート)を活用できるように推進する。</li> </ul>		
〔目標〕	<p>各学校ごとに、計画的に体験活動を実施し、児童生徒の体験の場を設ける。</p>		
〔実施状況〕	<p>コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、感染対策を講じながら、生活科や社会科見学の実施、中学校における職場体験学習(マイチャレンジ事業)の実施ができた。</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<p>市内の各施設の協力を得ながら、体験活動の実施を支援していく。</p>		

A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

# 点検評価シート

基本目標 2 次代につなぐ教育環境の充実



## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>6. 教育施設の充実</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 進捗状況も良好であるほか予算確保のうえ着実に環境づくりに努めている。</p> <p>No.2 重点取組として長寿命化、洋式化に向けて取り組んでいる。小中学校の適正配置の進捗により状況は変わると思うが予定されている計画においては着実に進められている。</p> <p>No.3 各学校において立地条件は違うが、校地全体を俯瞰して、不審者が侵入できないための最低限の整備を実施し、安全対策を図っていただきたい。</p> <p>No.4 課題が多くある中、あらためて委員会を立ち上げて適正配置に取り組むという姿勢に対して評価する。</p> <p>No.5 児童生徒への通学に対する負担軽減の取組はしっかり成されている。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 小中学校の整備		A	A
〔 事業概要 〕	<p>児童生徒等の安全で快適な教育環境を確保する上で必要となる整備を行うことにより、教育環境の改善を図る。</p> <p>▶特別教室等にエアコンを整備</p> <p>▶照明のLED化</p> <p>▶非構造部材の耐震対策として竜巻等による窓ガラス飛散防止対策 など</p> <p>【予算額】30, 118千円</p>		
〔 目標 〕	<p>施設整備計画期間内の整備進捗率</p> <p>○中学校の特別教室のエアコン設置率 R8年度までに100%</p> <p>○普通教室のLED照明設置率 R8年度までに100%</p>		
〔 実施状況 〕	<p>○中学校の特別教室のエアコン設置において賃貸借のための設計書を作成 (エアコン設置率:49.4%(R4.9.1現在))</p> <p>○照明のLED化においてESCO事業として契約を締結。本事業における対象教室のLED化に着手 (普通教室のLED照明設置率 9.8%(310台/3179台))</p> <p>○その他整備(北小学校外周フェンス改修)</p> <p>【決算額】22, 649千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>小中学校の適正規模・適正配置を見極めながら、児童生徒の教育環境の充実を図るため、特別教室のエアコン整備を計画的に進めていく必要がある。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 小中学校の長寿命化整備		A	A
〔 事業概要 〕	構造体の安全対策や設備配管の更新などにより建物の耐久性を高め、機能向上を兼ねた長寿命化改修を行う。 トイレ洋式化及び給排水設備等の改修・更新工事を行う。  <b>【予算額】 638,012千円</b>		
〔 目標 〕	学校施設の環境整備と長寿命化整備 ○長寿命化改良 8校 ○給排水設備改修 10校 ○トイレ洋式化 17校		
〔 実施状況 〕	○長寿命化改良 ▶西小学校屋内運動場(R4、R5継続事業) ▶北中学校屋内運動場(R4、R5継続事業) ○給排水設備改修 ▶石川小学校 ▶北押原中学校(給水設備 実施設計) ▶南押原中学校(給水設備 実施設計) ○トイレ洋式化 ▶栗野中学校 ▶菊西小学校、南押原小学校、楡木小学校、南摩中学校、板荷中学校 ○その他改修工事 ▶プールろ過機等:西小学校、菊西小学校、南摩中学校  目標に対する進捗率(完了実績) ○長寿命化改良 0校 進捗率 0% ○給排水設備改修 1校 進捗率 10% ○トイレ洋式化 6校 進捗率 35%  <b>【決算額】 370,008千円</b>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	小中学校の適正規模・適正配置を見極めながら、計画するとともに、学校施設の老朽改修や給排水設備更新に併せてトイレ洋式化整備を計画的に進めていく必要がある。		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 学校防犯設備等の整備		A	A
〔 事業概要 〕	不審者の侵入を防ぐため、門扉・フェンスの設置や敷地周囲等からの見通しを確保し死角の原因とならないように樹木等の適正な整備を行う。  <b>【予算額】5,000千円</b>		
〔 目標 〕	安全対策が必要と思われる箇所を確認し、予算の範囲内で順次、整備を行う。		

〔 実施状況 〕	<p>○フェンス改修工事 ▶西中学校 ○樹木伐採工事 ▶北押原中学校、南押原小学校</p> <p>【決算額】4,998千円</p>
〔 課題及び今後の進め方 〕	防犯設備(主に門扉やフェンス)の整備や危険木の伐採等を計画的に行っていく。

施策評価		自己評価	委員会評価
<b>4 小中学校の適正配置</b>	<b>【重点取組】</b>	<b>B</b>	<b>B</b>
〔 事業概要 〕	<p>・少子化が進行する中、小中学校において児童生徒の偏りが出ていることから、統廃合や学区の再編などを含む適正配置に取り組む。</p> <p>・「鹿沼市小中学校適正配置等基本計画」に基づき順次適正配置に向けた取り組みを進め、児童生徒の教育条件の改善を図る。</p> <p>・第3期実施プランの推進を図りながら事業を検証し、新基本計画の策定を進める。</p>		
〔 目標 〕	<p>小中学校の適正規模や適正配置を検討し教育環境の充実を図る。</p> <p>【指標】 統廃合が必要な小学校の数 7校(令和3年度) ⇒ 3校(令和8年度)</p>		
〔 実施状況 〕	<p>・小規模校である池ノ森小、上南摩小の学校や自治会長を訪問し現在の状況や地域住民の意向を確認した。</p> <p>・下野市、佐野市、矢板市に訪問し、各市の統廃合の状況を確認した。</p> <p>・全国的な少子高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、出生数の減少がこれまで以上に深刻化しており、計画していた統廃合では小規模校の解消が図れないため、計画の見直しを決定した。</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>「鹿沼市立小中学校適正配置等検討委員会」を設置し、「鹿沼市小中学校適正配置等基本計画」の次期計画を策定を進め、適正配置を実行していく。</p> <p>・主な内容 検討委員会の開催、アンケート調査・地域説明会、次期計画の策定など</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
5 スクールバスの運行		A	A
<p>(スクールバスの運行)  ・学校の統合に伴い、遠距離通学となった児童生徒の負担を軽減するためスクールバスを運行する。  【予算額:スクールバス管理費】  歳入:1,886千円 歳出:68,113千円</p> <p>(西小西大芦地区スクールタクシー)  ・下校時刻が学年によって分かれた際、スクールバス運行の調整がつかない児童に対し、スクールタクシーを運行する。  【予算額:小学校管理費】  歳入:185千円 歳出:369千円</p> <p>(粕尾小遠距離通学)  ・学校の統合に伴い、遠距離通学となった児童生徒の負担を軽減するためリーバスを活用した登下校支援を行う。  【予算額:小学校管理費】  歳入:42千円 歳出:247千円</p> <p>・スクールバスをはじめとした様々な交通体系との相互関係について、関係部局との連携により調査研究を進める。</p>			
<p>〔 事業概要 〕</p>			
<p>〔 目標 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅延なく、無事安全なスクールバス・スクールタクシーの運行管理</li> <li>・リーバス定期券費用の補助</li> </ul>			
<p>(スクールバスの運行)  ・小学校では4km以上、中学校では6km以上の通学距離となる児童生徒に対し、通学支援として、スクールバス9台を運行し、通学の負担軽減を図った。  【決算額:スクールバス管理費】  歳入:1,940千円 歳出:66,941千円  【対象校】西小・西中・加園小・栗野小・栗野中</p> <p>〔 実施状況 〕 (西小西大芦地区スクールタクシー)  ・スクールタクシーを運行し、通学の負担軽減を図った。  【決算額:小学校管理費】  歳入:194千円 歳出:207千円</p> <p>(粕尾小遠距離通学)  通学のため、リーバス定期券費用の全額補助を行った。  【決算額:小学校管理費】  歳入:42千円 歳出:247千円</p>			
<p>〔 課題及び今後の進め方 〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の統合により児童生徒の通学に支障がでると想定される際、地域の実情に応じて、公共交通機関などの利用も検討を行う。</li> </ul>			

A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

# 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

基本目標:②「次代につなぐ教育環境の充実」

基本施策	7. 学力向上を支える就学環境の充実	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 子どもたちにとっての教育の機会均等を十分確保している。</p> <p>No.2 より良い教育環境の充実に対し細かく対応していると思う。</p> <p>No.3 ICT支援員の派遣については、学校からの評価も高いことが伺える。事業としては積極的に前向きに取り組んでいる。</p> <p>No.4 滞納者は一定数いるものの、これからの鹿沼を担う若者への支援として非常に大事な施策のひとつである。より一層の充実が図れるようお願いしたい。</p> <p>No.5 ・給食主任や調理員など多くの職員の取りまとめを行い、また民間委託件数も目標どおりとなっているほか、調理場施設の整備・修繕を実施できていると評価できる。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 小中学校児童生徒への就学支援		A	A
<p>・経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒へ学用品費等を支給し、就学支援をする。</p> <p>・特別支援学級に入級する児童生徒への就学奨励費を支給し、経済的負担の軽減を図る。</p> <p>〔 事業概要 〕 ・学校と緊密な連携により、対象世帯への制度周知を図る。</p> <p>【 予算額 】</p> <p>①要保護準要保護児童生徒援助費                      小学校 29,652千円                      中学校 35,135千円</p> <p>②特別支援教育就学奨励費                      小学校 7,304千円                      中学校 6,192千円</p>			
<p>〔 目 標 〕 要保護・準要保護児童生徒への支援(支給対象者への100%支給)</p>			

・経済的理由によって就学困難な家庭に対し、学用品費、給食費、入学準備金等の支給することにより、児童生徒への就学環境の充実を図った。

①要保護・準要保護児童生徒援助費

小学校 362名(4名、準358名) 27,668千円

中学校 257名(4名、準253名) 30,784千円

〔実施状況〕 ・特別支援学級に入級する児童生徒へ学用品費、給食費、通学費を支給することにより、経済的負担の軽減を図った。

②特別支援教育就学奨励費

小学校 178名 6,341千円

中学校 90名 4,997千円

・全児童生徒に対し、学校を通してパンフレットを配布したほか、ホームページへの掲載、窓口へのパンフレットを設置することにより制度の周知を図った。

〔課題及び今後の進め方〕 国の動向も注視しながら、現行での事業実施を継続する。

施策評価		自己評価	委員会評価
2 より良い教育環境の整備		A	A
〔事業概要〕	<p>・児童生徒が安全かつ円滑に教育を受ける環境を整えるため、児童生徒用机椅子の計画的な更新を進める。</p> <p>・老朽化の進んだ大型学校備品について計画的に整備を図る。</p> <p>・複合機の更新(5年間の単価契約) 【小学校予算額:8,793千円】 【中学校予算額:4,506千円】</p> <p>・印刷機の更新(5年間のリース) 【小学校予算額:3,118千円】 【中学校予算額:1,813千円】</p> <p>・その他学校から要望のあった備品を更新・購入する。</p>		
〔目標〕	<p>老朽化した備品の計画的な更新</p> <p>・木製学習用机椅子の使用率増加 現在(小学校:36% 中学校:59%)</p> <p>・複合機リース契約の定期的な更新</p> <p>・印刷機リース契約の定期的な更新</p> <p>・その他学校から要望のあった備品を更新・購入する。</p>		

<p>[ 実施状況 ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境譲与税を用いた木製学習用机椅子への更新を行った。</li> <li>・木製学習用机椅子の更新          小学校 机 30台 椅子 23脚          中学校 机 13台 椅子 21脚          計 机 43台 椅子 44脚 【決算額:2,482千円】</li> <li>・複合機の更新          小学校 27台設置【決算額:6,525千円】          中学校 13台設置【決算額:3,745千円】</li> <li>・印刷機の更新          小学校 27台設置【決算額:2,866千円】          中学校 17台設置【決算額:1,685千円】</li> <li>・その他          大型モニター、教卓、給食クラス運搬車、冷蔵庫等          (感染症対策)空気清浄機、サーキュレーター、網戸等</li> </ul>
<p>[ 課題及び今後の進め方 ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの整備要望に対し、優先順位を付け、計画的に整備していく。</li> </ul>

施策評価		自己評価	委員会評価
<b>3 教育のICT環境整備</b>	<b>【重点取組】</b>	<b>A</b>	<b>A</b>
<p>[ 事業概要 ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的なICT機器の導入、更新を行うことで、教育現場のICT機器の性能向上、事務効率の向上を行い、充実した学習環境を整備する。</li> <li>・ICT支援員を配置し、教育現場でのICT活用を支援する。</li> </ul> <p>【予算額】 164,885千円</p>		
<p>[ 目標 ]</p>	<p>小中学校における機器の計画的な整備や更新を実施するとともに、活用の支援体制の強化を図る。</p> <p>【指標】          小中学校ICT機器の更新台数(5年累計)          0台(令和3年度) ⇒ 8,152台(令和8年度)</p>		
<p>[ 実施状況 ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づき、小中学校の校務用パソコンを更新した(更新台数320台)。</li> <li>・ICT支援員を学校の申請に基づき派遣した(派遣回数388回)</li> </ul> <p>【決算額】 164,212千円</p>		

〔 課題及び今後の進め方 〕 ・更新時の契約単位が細分化されているため、事務効率化を目的に契約の一本化などの検討をする。  
 ・GIGAスクール構想により導入(令和2年度)した設備・機器の更新について、更新対象が多いため、今後の導入方法などを検討する必要がある。

施策評価		自己評価	委員会評価
4 市奨学生の支援		A	A
〔 事業概要 〕	<p>教育の機会均等の趣旨に基づき、修学の意欲があるにもかかわらず、経済的な理由により修学できない高校生・大学生等に対し学資を貸し付け、ひろく修学の機会を提供するもの。</p> <p>○高校等：貸付額15,000円／月 以内          ○大学等：貸付額40,000円／月 以内</p> <p>【予算額】79,020千円</p>		
〔 目標 〕	<p>経済的な理由により修学できない高校生・大学生等に対し学資を貸し付け、ひろく修学の機会を提供する。</p> <p>・適切な貸付処理          ・情報提供の徹底</p>		
〔 実施状況 〕	<p>令和4年度は『広報かぬま』『市HP』等を活用し奨学金制度の周知を行い、申請者152名に対して奨学金の貸し付けを行った。</p> <p>【内訳】</p> <p>○高校等：10名 1,725,000円          ○大学等：142名 66,920,000円</p> <p>【決算額】68,645千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>現行制度での事業を継続する。なお、貸付金額等の制度については、他市の奨学金制度や社会情勢、国県の動向等を注視し適宜見直しを検討する。</p>		



施策評価		自己評価	委員会評価
5 安全安心な学校給食の提供	【重点取組】	A	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設機器等改修計画に沿って、優先順位を考慮しながら、施設・設備の改修を行う。</li> <li>・小中学校の適正配置と整合を図りながら、新たな地区共同調理場を整備し、計画的に給食業務委託を進める。</li> <li>・学校給食費徴収管理業務の効率化を検討する。</li> <li>・学校給食衛生管理基準に基づいた作業を徹底するため、関係職員への衛生管理研修会等を実施する。</li> <li>・学校給食における食物アレルギー対応について、関係職員への研修を行い、適正な対応ができるよう支援する。</li> </ul> <p>【予算額】895,487千円</p>		
〔目標〕	給食業務の民間委託件数を令和8年度までに8件にする。		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各調理施設の修繕を実施。</li> <li>・津田小を拠点とした北犬飼地区調理場整備工事を実施し、令和5年4月から石川小と北犬飼中へ配送できるよう、給食調理及び配送業務の民間委託を進めた。</li> <li>・卒業生など学校給食費滞納分で徴収困難案件等について、学校の希望に応じ徴収業務を調理場に移管し、調理場から督促・徴収を実施。</li> <li>・給食主任に研修会を実施し、衛生管理などスキルアップを図った。</li> <li>・調理員に研修会を実施し、衛生管理の他、調理員向けに作成した「食物アレルギーチェックポイント」について説明、事後訪問も実施した。</li> </ul> <p>【決算額】877,753千円</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・機器が老朽化しているため、施設・機器改修計画に基づき、優先順位を考慮しながら、施設・設備の改修を行う。</li> <li>・小中学校の適正配置と整合を図りながら、単独実施校等の計画的な地区調理場への集約など学校給食業務全体の効率化を図る。</li> <li>・学校給食費徴収管理業務の効率的・効果的な徴収方法を検討する。</li> <li>・調理員や給食主任などへ研修等を実施し、国の指針に沿った食物アレルギーの対応や衛生管理の徹底など、給食関係職員のスキルアップを図る。</li> </ul>		

A：施策展開により多大な成果があった。 B：施策展開により一応の成果があった。  
C：施策展開の成果があまりなかった。 D：施策展開を行わなかった。

## 点検評価シート

基本目標3 地域とともに高める学びと協働活動

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>8. 地域ぐるみで学び育ち合う体制の構築</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 コミュニティ・スクールの導入は全国的にみても半分程度であるが、市内すべての小中学校において導入できていることは素晴らしい。学校運営協議会として成功したモデル事例や市教委としての考え方を示すと課題解決の場として体制が整うと思う。</p> <p>No.2 情報発信や研修に力を入れている。数値目標は達成しているが登録者数よりも実績を充実させていただきたい。</p> <p>No.3 過去には国庫補助により実施をしていた家庭教育学級を現在も市の単独事業として継続しているねらいを明確にし、そうした趣旨を周知していただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 コミュニティ・スクールの導入推進	<b>【重点取組】</b>	A	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5(2023)年度までに、市内全小中学校にコミュニティ・スクールを導入する。</li> <li>・「地域とともにある学校づくり」を目指し、学校運営協議会による熟議を行い、地域・学校ごとに適切な体制づくりを推進する。</li> </ul> <p>【予算額】1,600千円</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校におけるコミュニティ・スクール導入校数を、令和8年度までに全小中学校34校に導入する。</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校、地域、コミュニティセンターなどとの調整をはかり、令和5年度までにすべての小中学校に学校運営協議会を設置する準備を整えた。</li> <li>・市内のボランティアや教職員のほか、民生委員児童委員協議会などの市内各団体に対して制度説明の出前講座を実施するほか、コミュニティ・スクールだよりの発行やコミュニティ・スクール研修会を実施することにより、制度の理解を進めた。</li> </ul> <p>【決算額】1,600千円</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会がいまだ熟議の場となり得ておらず、形式的な会議開催に留まっている。継続的に研修会、ワークショップ等を開催し学校運営協議会の活性化を支援していく。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 地域学校協働活動の推進		A	A
〔 事業概要 〕	<p>・「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域の人々や団体、民間企業等の幅広い参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、防犯や交通安全などの安心安全を確保する「地域学校協働活動」を推進する。</p> <p>・学校支援ボランティアの活動を支援するため、人材育成研修や地域への情報発信を行う。</p> <p>【予算額】5,225千円</p>		
〔 目標 〕	<p>・学校支援ボランティア登録者数を、令和8年度までに1,724人にする。</p>		
〔 実施状況 〕	<p>・各学校の地域学校協働活動の様子や活躍する地域コーディネーターへの取材を行い、地域学校協働活動だよりやホームページでの情報発信を行った。</p> <p>・放課後子ども教室を6教室開設し、地域ボランティアが子どもたちの多種多様な学習・体験を提供した。</p> <p>・各学校の安全安心対策委員会が地域の実情を合わせて、危険個所のマップ作成や登下校の見守り活動を実施した。</p> <p>・地域学校協働活動研修会を5回実施し、地域学校協働活動を継続して実施していくためのスキルを高め、他地区ボランティア同士の交流や意見交換をはかった。</p> <p>【決算額】4,305千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>・ボランティア登録者の高齢化、固定化が進んでおり人材育成、人材の掘り起こしが課題。コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動を一体的に進めるため広報活動、研修会の開催を引き続き実施する。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 家庭教育の支援		B	B
〔 事業概要 〕	<p>・家庭教育を推進するため、「家庭教育学級」をすべての小・中学校で開設するとともに、民間学級の運営を支援する。</p> <p>・家庭のあり方や子育てに関する研修の場とするため、家庭教育に関する講演会などを開催する。</p> <p>【予算額】2,290千円</p>		
〔 目標 〕	<p>・本市の家庭教育活性化のため、家庭教育事業への学び手の参画をすすめるとともに地域ぐるみで子育てを推進するためのリーダーの育成や場の確保に努める。</p>		

〔 実施状況 〕

- ・市内の家庭教育学級42学級を開設運営支援した。
  - ・子育て交流のつどいを開催し、各家庭教育学級から217名の学級生の参加した。
  - ・子育てゼミナールを実施し、第1日目は全学級が参加し、3学級からの活動状況の発表や県総合教育センター生涯学習部指導主事の講話を聞いた。第2日目は、4～5学級を1つのグループとし、次年度の計画立案演習を実施した。
  - ・地域子育て支援として、民間の子育てサロン2団体への支援を行った。
  - ・オピニオンリーダー活動の支援として、主催する講座への支援等、諸活動への支援を行った。
  - ・子育て親育ち講座支援として、市内の幼稚園・保育園等28施設に、3年間に1度保護者向けの学習会を実施してもらうよう支援した。
- 【決算額】2,290千円

〔 課題及び今後の進め方 〕 ・家庭教育学級の参加人数が減少傾向にあることが課題。多くの人に参  
加してもらうため開催時期、時間を検討し参加率を高める。

- A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>9. 主体的に学べる生涯学習環境の推進</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 多種多様な講座を実施しているが、参加人数を増やすための方策を検討し実施をしていただきたい。</p> <p>No.2 役員の固定化は深刻である。担い手不足の解消に向けた見通しを明確にしていきたい。</p> <p>No.3 学生スタッフの活用等、人材育成も担っている良い取組である。</p> <p>No.4 Wi-Fiの導入調整など利便性の向上に努力が伺える。今後も市民情報センターの名称に相応しい設備環境の充実を図っていただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
<b>1 多種多様な学習機会の提供</b>		B	B
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習総合情報誌発行によって行政・関連団体・市民団体の生涯学習情報を発信していきながら、生涯学習に係る団体・ボランティア・市民との調整を図り、かぬま生涯学習大学のよりよい在り方の検討と実践をしていきます。</li> <li>・リモート講座やインターネット操作に慣れていない市民向けのリモート受講のための操作方法講座を実施するなど、誰もが学べる環境づくりを推進します。</li> </ul> <p>【予算額】5,844千円</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催の生涯学習講座等への参加率を、令和7年度までに10.0%にする。</li> <li>・リモートによる生涯学習講座、リモート操作説明講座の開催を、令和8年度までに5回／年行う。</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習総合情報誌を2回／年発行し、行政のほか、市内の各生涯学習団体を含めた生涯学習情報を発信した。</li> <li>・かぬま学びフェスティバルを4年ぶりに開催し、日頃の学習成果の発表と生涯学習の啓発を行った。このイベントはかぬまワールドフェスティバルと共同開催とし、約2,000人の来場者があった。</li> <li>・課主催講座事業として、小学生や親子、成人を対象にした講座を実施した。ものづくりの講座の他、防災や地元産業をテーマにした講座を企画した。</li> <li>・リモート講座については、対面形式での講座実施に需要が多く実施を見送った。放送大学や県内大学の公開講座などについて、リモート講座があるものについてホームページなどで周知を図った。</li> </ul> <p>【決算額】5,654千円</p>		

〔 課題及び  
今後の進め方 〕

- ・かめま生涯学習大学の学位認定について、新規の学位認定の申請が5年以上なく、見直しが必要である。
- ・住民ニーズの把握に努め、多種多様な学習環境が提供できるよう、かめまマイカレッジ、主催講座の充実に努める。
- ・学習成果を発表できる機会の提供、仲間づくりなどにつながるサークルやボランティアなどの地域ネットワークにアクセスしやすい仕組みづくりを進めていく。
- ・地域にいる講師や団体、企業と連携・協働を図った講座を充実させる。

施策評価		自己評価	委員会評価
2 青少年健全育成活動の推進		B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内17地区の青少年育成市民会議の活動を支援し、青少年の健全育成をはかる。</li> <li>・少年指導員の活動状況を関係機関との連携させ、青少年指導センターの活動推進をはかる。</li> <li>・青少年育成団体の自主的な活動を支援するとともに、青少年を取り巻く環境の変化に対応した的確な支援策の構築をはかる。</li> </ul> 【予算額】5,720千円		
〔 目標 〕	少年指導員センターによる街頭指導回数を令和8年度に430回／年にする。		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成市民会議の活動については、コロナ禍ということもあり、研修会等が中止になったが、各地区で工夫を凝らし、健全育成につながる事業を実施した。</li> <li>・指導センターについては、青少年指導員と連携をとり、年410回の街頭指導を実施した。青少年を見かけた際は、積極的に声掛けをおこなった。また、公園等の施設において異常を発見した際は、所管課に対応を依頼した。</li> <li>・子ども会連合会においては、コロナ禍で縮小を余儀なくされたが、リーダー養成キャンプ、絵画展、こどもの集い等の行事を実施し事務局として支援した。</li> </ul> 【決算額】4,830千円		
〔 課題及び 今後の進め方 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成市民会議について地域の高齢化、役員の固定化等、地域の担い手不足が課題。コロナ禍で活動が停滞している団体に対し活性化を促すような支援をしていく。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 自然生活体験学習の提供		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然生活体験学習事業基本方針」に基づき、小中学校児童生徒への自然体験学習事業の実施</li> <li>・市民に・自然体験の機会を提供する「わくわくネイチャー事業」の実施</li> <li>・地域活性化を図るため、施設所在地の人材を活用</li> <li>・教師を目指す学生と連携して行う「交流カレッジ事業」の展開</li> </ul> 【予算額】34,739千円		

〔 目 標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験学習事業における、2泊3日宿泊学習実施校の割合80%以上</li> <li>・わくわくネーチャー事業における参加者満足度90%以上</li> </ul>
〔 実施状況 〕	<p>新型コロナウイルス対策により、都度計画の変更や中止を余儀なくされたが、自然体験学習では37校、約1,500人が参加、主催事業「かめまっ子わくわくキャンプ」「森の教室(3回実施)」とも、プログラムを提供することが出来た。</p> <p>また、管理運営スタッフ会議を中心に、地元人材の協力を得て事業を展開し、交流カレッジ事業では、延べ17名の学生が、活動に協力した。 【決算額】33,491千円</p>
〔 課題及び今後の進め方 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症、夏季の熱中症など利用者の安全対策が課題。</li> <li>・引き続き学生ボランティア、地域の協力を得ながら安全で充実した学習プログラムを提供する。</li> </ul>

施策評価		自己評価	委員会評価
4 生涯学習施設の整備と長寿命化		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民情報センターは平成11(1999)年、文化活動交流館は平成14(2002)年、自然体験交流センターは平成18(2006)年にオープンしているため、時代に対応した生涯学習環境の整備が必要となっている。学びの環境を維持し、市民の利便性を向上させるため、必要な施設修繕や改修を計画的に進める。</li> </ul> <p>【予算額】 1,877千円(交流C) 59,896千円+臨時3,520千円(情報C) 14,033千円(交流館)</p>		
〔 目 標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民情報センターの改修工事を実施する。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民情報センターおよび文化活動交流館は、指定管理によって計画的に運営された。情報センターの利用者は延べ79,949人、2,215千円の使用料収入があった。交流館の利用者は延べ33,258人、683千円の使用料収入があった。</li> <li>・市民情報センターの施設整備においては、EUC学習室のパソコン等機器の更新を行った。また、空調機器の緊急修繕を2件実施した。また、臨時経費により給水設備の修繕を計画したが、R5年度に繰越となった。</li> <li>・自然体験交流センターでは、3年ごとに行う特殊建築物定期点検の結果を受け、消防設備を修繕したほか、空調、厨房機器等を適宜修理した。</li> </ul> <p>【決算額】 1,876千円(交流C) 59,893千円+臨時3,190千円(情報C) 14,033千円(交流館)</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>市民情報センター・文化活動交流館の空調機器等について、経年劣化による故障が多発し、またメーカー製造終了品のために部品が手に入らない状態となっているため、大規模改修を必要としている。計画的に改修を行う。</p>		

A : 施策展開により多大な成果があった。    B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。    D : 施策展開を行わなかった。



## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>10. 学びを活かす社会参画の推進</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見                  No.1 地元の大学で、地域の活性化策や地域デザイン等を学んでいる学生を活用し連携を図ると良い。学生にとっても良い経験になる。                  No.2 課題にもある”まちかど先生”の登録人数が今後増えることを期待する。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 青少年の主体的な社会参画の促進		A	A
〔 事業概要 〕	<p>・「鹿沼市20祭」事業を実行委員会へ委託し、自主的な企画・運営を支援する。また、実行委員会での一連の経験が、今後の社会活動への展開につながるよう支援する。</p> <p>・青少年の自立支援として、ボランティアリーダー育成事業を開催し、体験活動や、異年齢交流活動を通して、人材の育成を図る。</p> <p>・青少年ボランティア団体の活動を支援し、青少年が学び、地域の行事へ参加する機会を提供する。また、青少年自身が、自主的な活動を継続できるよう支援する。</p> <p>・青少年の主体的なまちづくりへの参画推進として、市政情報の提供やアドバイスを高校の課題解決型授業において行い、地域の未来を拓いていくことができる人材の育成を支援する。</p> <p>【予算額】830千円</p>		
〔 目標 〕	<p>青少年の地域事業への参加コーディネート数を令和8年度に20件／年にする。</p>		
〔 実施状況 〕	<p>・鹿沼市20祭については、コロナ禍ではあったが、感染症対策をしながら通常開催に近い形で実施ができた。若い世代が創意工夫をしながら主体的に取り組めるよう支援することで参加者視点に立った内容となり、参加者アンケートでは89%の満足度を得ることができた。</p> <p>・青少年ボランティアリーダー教室を7回(6月～9月)に渡り実施。21人の受講者が児童対象のキャンプ(1泊2日)にボランティアスタッフとして参加。実践的に学ぶプログラムを通して人材育成を図った。</p> <p>・かぬまボランティアユース(kavy)については、コロナ禍により活動の機会が減少していることを踏まえ、イベント等の活動機会を積極的に提供。ボランティアリーダー教室の連携を強めながら活動の立て直しと人材育成に取り組んだ。</p> <p>・鹿沼高校・鹿沼東高校が実施する課題解決型授業に協力。NPO法人との連携や市の職員をアドバイザーとして派遣するなど授業の支援を行った。</p> <p>・青少年の地域事業へ参加コーディネート数については17件／年であった。</p> <p>【決算額】827千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>・社会参画活動が一過性にならないよう、引き続き関係団体へ情報提供を行いながら興味関心を高めていく。また、関係団体が個別に活動を行うのではなく、相互に連携し合える環境づくりを図っていく。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 地域人材ネットワークの活用促進		B	B
〔 事業概要 〕	<p>・講師情報登録・情報提供制度について、かぬま生涯学習大学との連携がなされた分野整理をする。</p> <p>・かぬままちづくり出前講座・まちかどで先生出前講座を開催し、地域住民の生涯学習講師としての活躍と、行政や地域住民から学ぶことが出来る生涯学習活動を支援する。</p> <p>・公民館と連携して公民館講座を充実させるため、時代のニーズや地域の状況にあった生涯学習の推進を図る。</p> <p>・地域でのサークル活動等を推進し、公民館の「集い」・「学び」・「つながる」機能を発揮することにより、地域連帯感と社会参画の機運を醸成する。</p> <p>【予算】2,498千円</p>		
〔 目標 〕	<p>・かぬままちづくり出前講座・まちかど先生出前講座の開催数を、令和8年度までに80回／年とする。</p> <p>・地域でのサークル活動等への参加率を、令和7年度までに15.0パーセントにする。</p>		
〔 実施状況 〕	<p>・講師情報登録は96人、まちかど先生は16人の登録があった。</p> <p>・かぬままちづくり出前講座は59講座実施し、延べ3,853人の利用があった。まちかど先生出前講座は8講座実施し、延べ206人の利用があった。</p> <p>・市内の14公民館において公民館事業を実施し、各地区において図書の貸し出し、公民館教室、たよりの発行などを行った。</p> <p>・3月に明治安田生命との包括連携協定の中で生涯学習に関する事項において協定を結んだ。</p> <p>【決算】2,010千円(公民館事業)</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>・まちかど先生の登録人数が少なく、学習者が地元講師として地域で活躍できるよう、支援していく必要がある。</p> <p>・充実した公民館講座が開催できるよう、講座、講師派遣情報などの提供、研修会を実施する。</p>		

- A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	11. 主体的な文化活動と特色ある文化の形成	最終評価	B
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 新たな取組もされており企画の充実は評価できるが、お囃子を実施している学校との連携やマンガイラスト部会が部活の延長として参加できるような展開を図っても良いのではないかと。</p> <p>No.2 今後は、ソフト面で本センターの中核である文化芸術の幅を広げられるような取組みを行っていただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1	文化芸術活動の次世代への継承	B	B
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS、CATVなどのメディアを活用した文化情報の発信。</li> <li>・市民文化祭のリニューアル、市民文化芸術の日「meet with KANUMA」事業の開催。</li> <li>・文化芸術団体と協働により子ども達への文化芸術体験機会を創出し、次世代への継承に努める。</li> </ul> <p>【予算額】市民文化祭開催委託料 3,700千円</p>		
〔目標〕	<p>市民文化祭参加者数を令和8年までに8,650人にする。                      [基準値に人口減少率(99.25%)を乗じ、毎年1%増]</p> <p>【基準値】令和元年度 8,545人                      【目標値】(R4)8,566人、(R5)8,587人、(R6)8,608人、(R7)8,629人、(R8)8,650人</p>		
〔実施状況〕	<p>R4市民文化祭参加者数 5,721人                      (コロナ禍によりR2は文化祭中止、R3は2,449人と復旧には至っていない)</p> <p>【決算額】市民文化祭開催委託料 3,700千円</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民文化祭参加者の高齢化、内容固定化が顕著であり、参加者数が減少傾向にある。</li> <li>・高齢化により廃止した部会に代わり、若年層向けの企画充実を図る。</li> </ul> <p>R3バンド部会設立、R1バンドフェスティバル開催、H30マンガイラスト部会設立。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2	文化の杜(市民文化センター)の活用促進	B	B
〔事業概要〕	<p>昭和59(1984)年開館の文化センターの計画的な修繕を実施し、長寿命化と利用者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業・科学館事業開催により、市民へ文化芸術に触れる機会を提供する。</li> <li>・大小ホール特定天井等の計画的な改修実施。</li> <li>・SNS等の活用により情報発信を強化し、施設の利用促進につなぐ。</li> </ul>		

〔 目 標 〕 市民文化センター年間利用者数を令和8年までに133,076人にする。  
〔基準値に人口減少率(99.25%)を乗じ、毎年1%増〕  
【基準値】131,474人(H29～30の平均)  
(R4)131,793人、(R5)132,113人、(R6)132,433人、(R7)132,754人、(R8)  
133,076人

〔 実施状況 〕 ・R4文化センター年間利用者数 78,703人  
(コロナ禍によりR3利用者数40,436人に減少、R4復旧に至らず)  
・誘導灯修繕(20基)【決算額】1,042千円  
・大小ホール舞台幕更新工事(R5繰越事業)【予算額】37,345千円

〔 課題及び今後の進め方 〕 ・大ホール調光操作卓故障のため早急に修理を実施する。  
・施設の耐用年数調査を実施する。

A : 施策展開により多大な成果があった。    B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。    D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>12. 地域資源の継承と郷土学習の推進</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 収蔵スペースに課題はあるが文化財の調査保護は着実に実施できている。</p> <p>No.2 目立つ作業ではないが重要な業務。資料の調査・収集・整理・分類・保存など非常に緻密な作業を実施していると思う。</p> <p>No.3 目標に対して積極的で実施状況も良好である。副読本へ二次元コードを追加するなど大変評価できる。</p> <p>No.4 今宮神社祭だけでなく各地域の伝統行事を更に浸透させ広めていただきたい。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 文化財指定の推進と保護		A	A
〔 事業概要 〕	<p>自然・歴史・文化遺産を市民共有の財産として文化財に指定するとともに、その保護・保存のため、地域と協働で様々な支援を実施する。埋蔵文化財の適正な調査・保存・保護を継続的に推進し、成果の公開・活用のための事業を展開する。</p> <p>鹿沼市の文化財保護・活用の将来的なビジョンを明示する「鹿沼市文化財保存活用地域計画」の策定作業を推進する。</p> <p>【予算額】18,881千円</p>		
〔 目標 〕	<p>法令に基づいた文化財調査及び保護支援を令和8年度までに年間51件実施する。</p>		
〔 実施状況 〕	<p>1件の文化財指定のほか、指定に向けた調査や鹿沼城跡発掘調査及び医王寺金堂修理事業など、58件の文化財調査、保存・保護のための支援を実施した。</p> <p>また「鹿沼市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた市民検討会議を2回開催した。</p> <p>令和4年度実施件数:58件(113%)(指定、地域計画は除く)</p> <p>【決算額】16,849千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>貴重な文化財を後世に伝えるためには事業の継続性が重要である。文化財の状況把握に努め、緊急性を考慮したうえで、優先順位をつけて継続して取り組んでいく。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 地域資源の調査と保存		A	A
〔 事業概要 〕	<p>地域に残る様々な資料を地域資源として捉え、調査・収集・整理活動を推進する。 蓄積された資料は地域の将来の振興の基礎となる財産として確実な保存を図るとともに、それらをデジタル化し、公開・活用につなげていく。</p> <p>【予算額】2,939千円</p>		
〔 目標 〕	10件の家・団体の資料調査・収集		
〔 実施状況 〕	<p>15件の家・団体の資料調査・収集、歴史的公文書の選別・収集、保存を要する資料428点のデジタル撮影、自然史資料の整理・分類作業を推進した。</p> <p>【決算額】2,710千円</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>平成31年の改正文化財保護法施行により本事業が対象とする未指定文化財の保存・活用のさらなる推進が求められているが、過疎化・高齢化・災害の頻発に伴う資料散逸・滅失が課題となっている。調査要望も増加しているため、継続して事業を推進していく。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 郷土愛を育む学習の推進		A	A
〔 事業概要 〕	<p>市民と協働して各地域の地域資源の調査や、その成果の活用を行い、身近な地域への愛着を醸成する。また、地域資源の調査成果を学校教育や生涯学習で活用し、ふるさとに対する豊かな理解と愛着を育成する。</p>		
〔 目標 〕	支援校・団体数 6校・団体		
〔 実施状況 〕	<p>北押原中学校等5校と1団体で出前講座を実施した。 令和5年版「わたしたちの鹿沼市」に文化課の各種調査成果を反映すると共に、デジタル資料にアクセスできる二次元コードを追加した。</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>学校向け出前講座は定着しつつあり、感染症対策が緩和された令和5年度以降は拡大が見込まれる(令和5年8月1日現在10校実施)。学校向け実物資料の貸出し事業と市民向け出前講座についても更なるPRを行い、事業の拡大を図る。</p>		

施策評価		自己評価	委員会評価
4 伝統行事の継承		B	B
〔 事業概要 〕	<p>多様な伝統行事の担い手を育成するため、保存団体と連携した継承の仕組みづくりを行う。 伝統行事の現状把握や記録保存、研究を進め、その成果の公開・活用に努める。</p> <p>【予算額】1,653千円</p>		

〔 目 標 〕 民俗行事に関する普及・啓発活動を年間1回実施する。

〔 実施状況 〕 「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」の保存・伝承のため、令和3年度補正予算事業文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)を活用した、中田町屋台・麻苧町屋台・久保町屋台・泉町屋台・下栃窪囃子保存会囃子太鼓・仲町踊屋台・神輿渡御警護衣装・提灯修理、記録誌作成、上材木町手古舞衣装新調を実施した。また、文化庁を招いた保存修理委員会(2回)を開催した。  
なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、行事は中止となった。

【決算額】110千円

〔 課題及び今後の進め方 〕 伝統行事への参加者人口の増加および後継者育成を図るため、今後も行事の保護・継承について関係団体と連携して取り組む。  
また、後継者育成に向け、関係機関等と調整しながら適切な取組について検討していく必要がある。

A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>13. 博物館等活動の推進</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見                  No.1 地元紙にも掲載された「市民学芸員」の養成講座など非常に良い取組みをしている。                  No.2 目標値と比べると実績は厳しいが、感染症の影響もある中で地道な取組みをしていると思う。市単独の取組だけではなく、澄生ファンの方々とのネットワークを構築し、協力(コラボ)し合って取組むと良いのではないか。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 まるごと博物館事業の推進		B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まるごと博物館各施設(文化活動交流館郷土資料展示室・粟野歴史民俗資料館・木のふるさと伝統工芸館・仲町屋台展示収蔵庫)の適切な管理運営と、常設展示・各種講座の充実を図る。</li> <li>・市の魅力や特質を明らかにして周知するための企画展示や講演会等のイベントを開催する。</li> <li>・市民学芸員を養成し、市民協働の博物館活動を推進する。</li> <li>・地域資源の再評価とネットワークの再構築を行うことで、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。</li> </ul> <p>【予算額】8,016千円</p>		
〔目標〕	まるごと博物館事業参加者数(施設来館者数を除くソフト事業の参加者数) 2,954人		
〔実施状況〕	自然はともだち展、第8回企画展「学校誕生」を中心に事業を推進したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり事業参加者数は1,149人に留まった。また、7月から市民学芸員による古文書調査会を組織し、市民協働による調査活動の実践を開始した。		
〔課題及び今後の進め方〕	市民学芸員のさらなる養成と各種活動の拡充を図り、市民協働による博物館活動を充実させることで、改正文化財保護法の目指す地域総がかりの文化財の保存・継承の仕組みを作る必要がある。5年度は感染症対策の緩和もあり、事業参加者数の回復が見込まれる。		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 魅力ある川上澄生美術館の運営		B	B
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展を通じた川上澄生や木版画の魅力発信</li> <li>・木版画大賞等の公募展、教育普及事業を通じた木版画文化の振興</li> <li>・美術作品を守るための施設の維持管理</li> </ul>		
〔目標〕	川上澄生美術館の入館者数を令和8年度までに18,189名とする。		



〔 実施状況 〕

開館30周年記念・川上澄生没後50年特別企画展「川上澄生の全貌」展を大規模に開催したほか、4年ぶりに木版画大賞事業を開催、新規事業として美術館・図書館合同スタンプラリーなどを実施した結果、令和4年度の入館者数は13,890名となり、令和3年度比で3,573名の大幅増となった。

〔 課題及び  
今後の進め方 〕

目標値までさらに4,000名の増が必要となるため、さらなる企画展の内容の充実、SNSの導入を含めた情報発信の強化、新型コロナウイルス感染拡大防止のために休止していた講座等の再開を進める。また、施設の維持管理に向け、長期的な計画を立て、着実に遂行する。

- A：施策展開により多大な成果があった。      B：施策展開により一応の成果があった。  
C：施策展開の成果があまりなかった。      D：施策展開を行わなかった。

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	<b>14. 市民の読書環境の充実</b>	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 YA図書の充実やお話給食の実施など読書活動に向けた様々な取組みをしている。</p> <p>No.2 実施状況を見ましても様々な取組を積極的に実施していることが伺える。こういった取り組む姿勢は重要である。</p> <p>No.3 予算の掛かる事業展開ではあるが今後も期待したい。</p> <p>No.4 施設が老朽化する中で本館の工事に着手している。今後も計画的に整備・更新できるよう期待する。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 子どもの読書活動の充実	<b>【重点取組】</b>	B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校等、地域における読書活動を推進する。</li> <li>・小・中学生を対象に「読書通帳」を配布する(通帳1冊に読んだ本50冊分の記録が可能)。</li> <li>・学校図書館支援員や図書館ボランティアとの関係性を深め、児童・生徒の読書習慣の向上を図る。</li> <li>・中高生向け「YA(ヤングアダルト)図書」蔵書数を充実させる。</li> </ul> <p><b>【予算額】</b>                      (読書普及費) 3,431千円                      (図書館資料充実費) 22,971千円</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の読書通帳への記録50冊達成者数を令和8年度までに122人にする。</li> <li>・「YA図書」蔵書数を令和8年度までに11,000冊にする。</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援員の選書の参考となるよう、家読セットについてのチラシの更新やお話給食向けの図書リストの作成を行った。</li> <li>・学校教育課主体で、お話給食を各小学校それぞれのやり方で実施できた。</li> <li>・「赤ちゃんタイム」を、赤ちゃんおはなし会(4回)や通常のおはなし会等(127回)にて実施。乳幼児期からの読書支援を行った。おはなし会は、ボランティア団体の協力により、継続して定期的に開催している。</li> </ul> <p><b>【決算額】</b>(読書普及費)3,395千円のうち、287千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書通帳 50冊達成者 108名</li> <li>・YA図書蔵書数 3館合計 9,714冊 達成率88.3%</li> </ul> <p><b>【決算額】</b>(図書館資料充実費)22,837千円のうち1,951千円</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育課、学校図書館支援員や図書館ボランティアとの連携を図り、子どもたちの読書活動を推進していく。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 読書普及事業の推進		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LLブックなどの導入により、読書のバリアフリー化を推進する。</li> <li>・図書館に足を運ぶきっかけとなるよう、年齢層に応じた事業を計画的に実施する。</li> <li>・民間企業等からの支援や協力を得ながら、読書活動の普及・促進を図る。</li> </ul> <p>【予算額】(読書普及費)3,431千円</p>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌スポンサー協賛加盟店を令和8年までに14社にする。</li> <li>・小さな図書館の協力事業所を令和8年までに22事業所にする。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LLブックや大活字本などのバリアフリー図書や点字図書の導入数 127点(前年比2.3%増) 蔵書数計 4,815点</li> <li>・年齢層に応じた事業(図書館関連ボランティア団体と連携して実施) 子供・親子向け・・・おはなし会、読み聞かせ会、点字体験講座 など 一般向け・・・文学講座、寄席 など</li> </ul> <p>【決算額】(読書普及費)3,395千円のうち、1,129千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生対象 夏休みスタンプラリー 景品配布数合計 376点 (川上澄生美術館とのコラボ事業)</li> <li>・子どもたちの作品の展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 市内小学生の読書感想画</li> <li>* 子ども司書講座、マイチャレンジ、インターンシップの小中高生のおすすめ本や作成したポップ</li> <li>* 鹿沼南高校ライフデザイン科の生徒の製作品</li> </ul> </li> <li>・雑誌スポンサー協賛加盟店数(個人スポンサーを含む) 12社(前年比 1件増) 達成率85.7%</li> <li>・小さな図書館協力事業所 16事業所(前年同数) 達成率72.7%</li> </ul>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例事業以外にも、来館のきっかけとなる魅力ある事業を実施する。</li> <li>・民間企業等からの支援拡大に向けての方策を検討する。</li> <li>・実施事業の周知を図る(事業実施ボランティア団体等の協力、館報、チラシ、ホームページ、デジタルサイネージ等を利用)。</li> <li>・引き続き、各コミュニティセンター等に図書を定期的に配本し、身近な場所で図書を利用できる環境を提供していく。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
3 図書館資料と業務システムの充実		B	B
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な資料を収集し、所蔵資料の充実化を図る。</li> <li>・リサイクル市や福祉施設への譲渡等、図書館での役割を終えた資料を有効に活用する。</li> <li>・ホームページを充実させ、適時的確な情報発信に努める。</li> </ul> <p>【予算額】  (図書館資料充実費)22,971千円  (図書館管理費) 75,706千円</p>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の調査研究、リクエストなどに対応できるよう、資料の充実に努める。</li> <li>・図書館システムやホームページの円滑な運用を行う。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料総数 462,612点(前年比100.41%)</li> </ul> <p>【決算額】(図書館資料充実費)22,837千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル市での有償頒布 4,991点(収入257千円)</li> <li>福祉施設への無償譲渡 389点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ホームページ <ul style="list-style-type: none"> <li>* YA図書紹介のページを新設</li> <li>* 図書館要覧の項を増設</li> </ul> </li> </ul> <p>(HPの維持管理・更新、図書館管理費のうち、委託費189千円)</p>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な蔵書数と保管について検討し、市民の読書活動等の環境を整備する。</li> <li>・オンラインデータベース等最新情報を提供・活用できる体制の確保と、レファレンス業務の充実を図る。</li> <li>・ネット予約やMy本棚など、図書館ホームページの便利な使い方を周知し、利用を促進する。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
4 快適で親しまれる図書館の整備・充実		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の計画的な整備・更新を行い、快適で利用しやすい施設を目指す。</li> </ul> <p>【予算額】(図書館管理費)75,706千円</p>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館の空調機器更新、特定天井解消、照明LED化に向けた予算化。</li> <li>・粟野館の空調機器更新、昇降機の改修の予算化。</li> <li>・東分館の空調機器更新、外壁塗装、屋根改修の予算化。</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館の、空調機器更新、特定天井解消、照明のLED化について、R5年度から10年間の賃貸借として予算化した。</li> <li>・粟野館の、空調機器、放送設備の修繕を行った。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修は実施無し</li> </ul> <p>【決算額】(図書館管理費)75,620千円</p>		

〔 課題及び  
今後の進め方 〕

・本館(H01築)、栗野館(H02築)、東分館(H16築)とも老朽化による施設の不具合が多々発生しているが、改修を一斉に行うことは困難である。館内利用に影響が大きいものとして、本館の空調機器の更新が行われたのち、栗野館と東分館の空調機器更新を順次行うこととして、予算化に向けて進める。

- A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

## 点検評価シート

基本目標4 スポーツでつくる健康都市の推進

## 令和4年度実施事業 鹿沼市教育委員会点検評価シート

<b>基本施策</b>	15. スポーツ参画人口の拡大と施設の総合管理	最終評価	A
<p>&lt;点検・評価&gt; 評価委員の主な意見</p> <p>No.1 新たに「ボッチャ」の講習会を実施するなどの取組みは評価ができる。また、補助金の活用にも主体性がみられスポーツ参画人口の拡大に積極的に取り組んでいる。</p> <p>No.2 予定どおりに開催でき大きな成果が得られたと感じる。</p> <p>No.3 コロナ禍においても、さつきマラソンを代表とする様々なスポーツイベントを実施していることや、宇都宮ブルックスなどプロスポーツに触れる機会の提供は評価できる取組みである。</p> <p>No.4 老朽化している施設において限られた予算の中で努力していることが伺える。</p>			

施策評価		自己評価	委員会評価
1 市民のスポーツ参画人口の拡大	<b>【重点取組】</b>	B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から高齢者までライフステージに応じたスポーツ活動の推進。</li> <li>・スポーツに関する人材・組織の育成。</li> <li>・障がい者スポーツの促進。</li> </ul> <p>【予算額】生涯スポーツ振興事業費 19,081千円 (「3 スポーツ交流の促進」と同予算)</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の週1日以上スポーツ実施率(世論調査) 36%(令和3年度) → 44%(令和8年度)</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助事業の「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト」により、運動遊び研修会を2回、親子運動遊び教室を1回、運動遊び指導者派遣を8園に延べ40回実施、子供を含めた子育て世代のスポーツ参加を促進した。</li> <li>・地域スポーツを支援し6地区で各種運動教室や大会に延べ6,717人が参加、市民がスポーツに参加する機会を提供した。</li> <li>・包括連携協定を結ぶあいおいニッセイ同和損保と共同でボッチャの講習会を実施し、障がい者スポーツを通じて障がい者への理解を深めた。</li> </ul> <p>【決算額】生涯スポーツ振興事業費 18,278千円 (「3 スポーツ交流の促進」と同予算)</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯において運動習慣が身につくかは幼少期から運動に親しむ機会の有無が大きな役割を果たす。保護者・保育者の理解を深めることが課題となる。</li> <li>・障がい者スポーツを体験することで、障がい者と健常者の相互理解を深めることが可能と考える。今後は福祉部門の部署と連携し障がい者スポーツを体験する場を提供する。</li> </ul>		

施策評価		自己評価	委員会評価
2 いちご一会とちぎ国体、いちご一会とちぎ国体の開催		A	A

〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第77回国民体育大会いちご一会とちぎ国体、第22回全国障害者スポーツ大会いちご一会とちぎ大会の開催。</li> <li>・国内最大のスポーツイベントである両大会を通じた、スポーツへの関心向上及び障がいや障がい者スポーツへの理解促進。</li> </ul> <p>【予算額】国体・障害者スポーツ大会推進事業費 202,258千円</p>
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体 デモンストレーションスポーツ ウォーキングの開催</li> <li>・国体 公開競技 武術太極拳の開催</li> <li>・国体 正式競技 卓球(全種別)の開催</li> <li>・国体 正式競技 バレーボール(成年女子)の開催</li> <li>・障スポ 正式競技 卓球(身・知・精(STT含む))の開催</li> </ul>
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体 デモンストレーションスポーツ ウォーキング 9/10 399名</li> <li>・国体 公開競技 武術太極拳 9/23-9/25 1,456名</li> <li>・国体 正式競技 卓球(全種別) 9/29-10/5 8,376名</li> <li>・国体 正式競技 バレーボール(成年女子) 10/6-10/10 5,136名</li> <li>・障スポ 正式競技 卓球(身・知・精(STT含む)) 10/28-10/31 4,318名</li> </ul> <p>合計 20日 19,574名</p> <p>【決算額】国体・障害者スポーツ大会推進事業費 200,789千円</p>
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての競技で大きな事故なく無事に開催することができた。今後は国体・障害者スポーツ大会で掲げた精神を引き継ぎ、レガシー事業として市民が継続してスポーツに親しむ環境の整備や障がい者と健常者が区別なく参加できる場を提供していく。</li> </ul>

施策評価		自己評価	委員会評価
3 スポーツ交流の促進		B	A
〔事業概要〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツイベント・大会の開催を通じた交流人口増加の促進。</li> <li>・市民のスポーツ意識の醸成。</li> </ul> <p>【予算額】生涯スポーツ振興事業費 19,081千円 (「1 市民のスポーツ参画人口の拡大」と同予算)</p>		
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の週1日以上スポーツ実施率(世論調査) 36%(令和3年度) → 44%(令和8年度)</li> </ul>		
〔実施状況〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿沼さつきマラソン大会を5月に開催、コロナ禍の縮小開催で県内在住者のみを対象とし1,902名が参加した。このほか平野早矢香杯卓球大会や鹿沼市駅伝競走大会などを実施し、スポーツを通じた交流人口の拡大を進めた。</li> <li>・マザータウン協定を結ぶ宇都宮ブルックスのプレシーズンマッチを9月に開催し、プロスポーツに触れる機会を提供し市民のスポーツ意識の向上を図った。</li> </ul> <p>【決算額】生涯スポーツ振興事業費 18,278千円 (「1 市民のスポーツ参画人口の拡大」と同予算)</p>		
〔課題及び今後の進め方〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィズコロナを見据え、各種スポーツイベント・大会について以前のような通常開催の可否を検討する必要がある。</li> </ul>		



施策評価		自己評価	委員会評価
4 スポーツ環境の整備と利活用の促進		B	A
〔 事業概要 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な改修や修繕、各施設の統廃合については、市民ニーズを踏まえながら計画的に進める。</li> <li>【予算額】体育施設整備事業費:44,271千円(繰越含む)</li> <li>・学校体育施設の開放による生涯スポーツ活動の充実を図る。</li> <li>【予算額】学校開放事業費:4,677千円</li> </ul>		
〔 目標 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動施設の利用者数減少幅の抑制 92%(令和3年度) → 84.5%(令和8年度)</li> <li>・陸上競技場の稼働率の上昇 100%(R4年度) → 106%(R8年度)</li> <li>・施設の廃止・統合を進める施設 1施設/年</li> </ul>		
〔 実施状況 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技場の改修に向けて関係団体と打合せを行い、測量・実施設計業務を実施した。</li> <li>・老朽化に伴う御殿山公園南側トイレの改築工事や鹿沼運動公園のトイレ洋式化工事を実施する等、利用者が安心して利用できる施設整備を行った。</li> <li>・老朽化した各施設(上粕尾プール、児子沼公園および台の原公園テニスコート)について、関係団体より意見を徴収し、廃止をした。</li> <li>R4年度末運動施設の利用者数減少率:62%</li> <li>【決算額】体育施設整備事業費 43,770千円(繰越含む)</li> <li>・学校施設開放事業として、小学校22校、中学校9校、高校1校を開放した。</li> <li>年間2,777件(体育館2,436件、校庭341件)の利用</li> <li>【決算額】学校開放事業費 3,614千円</li> </ul>		
〔 課題及び今後の進め方 〕	<p>スポーツ施設全体が老朽化していることから、優先順位をつけて計画的に整備をするとともに、施設の整備方針(長寿命化や統廃合など)を定め、選択と集中による施設整備が必要である。</p>		

A : 施策展開により多大な成果があった。      B : 施策展開により一応の成果があった。  
C : 施策展開の成果があまりなかった。      D : 施策展開を行わなかった。

## IV 資 料

### 鹿沼市教育委員会評価委員会設置要綱

## 鹿沼市教育委員会評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 鹿沼市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行うため、鹿沼市教育委員会評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務・事業の点検及び評価を行うこと。
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員3人以内で組織し、教育に関し識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の者が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。



令和5年度〔令和4年度事業対象〕

教育に関する事務の点検・評価報告書

令和5年12月

編集・発行 / 鹿沼市教育委員会

事務局

鹿沼市教育委員会教育総務課

〒322-8601 鹿沼市今宮町 1688-1

TEL 0289-63-2234

FAX 0289-63-2118